

Newsletter

No. 9 May 2013

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

El Cobre (銅)

チリといえばワイン、アンデス山脈、鮭、など思いつくものはいろいろとありますが、チリ経済を支えているといっても過言ではないのが、銅です。電線や電気製品の回路などに多く使われることから世界的な需要も高く、また投機資金の投入も相まって銅価格の高騰が続いています。チリは国別銅生産量が世界全体の約3割を占める最大の輸出国であり、銅輸出により大幅な財政黒字がもたらされています。

チリの銅採掘には国営企業であるCODELCOだけでなく、国内外の資本が参入しており、現在でも多くの鉱山が開発中です。日系企業の参入も多く、鉱山関連の駐在員の方々も増加しつつあり、チリの日本人コミュニティも徐々に大きくなってきている印象です。駐在員の方々から、鉱山開発に目処が付き、いよいよ採掘段階に移るのだ等という話を聞くと、種を蒔かれたプロジェクトが実を結びつつあるのだなど嬉しく思います。同時に、我々のプロジェクトもチリ・中南米において医療分野でいずれ実を結ぶことを願わずにはいられないのですが果たして！？

ニュースレター第9号では、進行中の大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の報告を中心に、LACRCの活動をお伝えしてまいります。また、内視鏡分野スタッフの交代がありましたので本号にて報告させていただきます。

河内 洋 LACRC 人体病理学分野



チリの銅で作られた製品(チリのロデオ)



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
PRENECの進捗	2
TMDUと私	4
活動報告	5
Staff	7

PRENECの進捗状況

LACRCのメインミッションであるPRENECの最新情報をお伝えいたします。このプロジェクトは、第5州のバルパライソ、第12州のプンタ・アレナスにおいて、それぞれ年間3,000人、サンティアゴにて10,000人を対象とした免疫学的便潜血反応検査（以下、iFOBT）を計画しています。PRENECは、中南米諸国にも広がっており、現在エクアドル、パラグアイにてプロジェクト実施における取り組みが始まっています。

第1回PRENECインターナショナルコースを開催

第1回PRENECインターナショナルコース（Primer curso internacional PRENEC）が本年3月18日に開催され、LACRCより河内講師（病理分野）、田中助教（内視鏡分野）が講師として参加しました。

本コースは、FUJIFILMの支援の下、クリニカ・ラス・コンデス（以下、CLC）大腸肛門科によって行われたもので、将来のPRENECへの加入促進を目的とし、ブラジルから4名、チリ国内（第2州のアントファガスタ、第9州のテムコ、第10州のオソルノ）より3名の消化器科・大腸肛門科の医師が出席しました。

参加者は、現在プンタ・アレナスにて実施されているPRENECの事例を参考にしながら、PRENECの運営方法や、プロトコール、様々な分野ごとの講習を受講し、講習後には「当院でもPRENECに加入できるよう前向きに検討していきたい」等の力強いコメントが寄せられました。

今後も、LACRCスタッフは、CLCの大腸肛門科と連携しながら、PRENECを中南米諸国に普及するために活動を行っていく予定です。



コース参加者とCLC・TMDUスタッフとの記念撮影



コース参加者との懇親会の様



コースの様子

サンティアゴにおけるPRENEC

本年5月より、サンティアゴにおけるPRENECが満を持してスタートいたしました。

サンティアゴにおけるPRENECは、プンタアレナスにおいてPRENECに携わった経験を持つパレデス看護師がコーディネーターとしてサン・ボルハ・アリアラン病院の日智消化器病研究所に3月に着任し、準備が進められてきました。参加条件を満たす市民の抽出は、CESFAM(地域の保健所)に登録されている情報から行われています。その情報に基づき3月下旬よりPRENECコールセンターの秘書が電話によるPRENEC参加案内を開始いたしました。

同時に、PRENECプロジェクトのプロモーション活動も4月上旬より、サンティアゴの各診療所、地域の会合、健康フェア等にスタッフが赴き行われています。またCESFAMにおいてもPRENECプログラムに参加することにより得られる利益について医療補助スタッフに

よる情報提供が行われています。

現在では、それぞれのCESFAMIには医療補助スタッフが各1名配置されており、前記の活動のみならず、PRENECプロジェクトに関する市民からの問い合わせや条件を満たした新規参加者の登録を促す役割も果たしています。

現在、管轄倫理委員会の承認を待っている段階ですが、6月中旬には登録者へのiFOBTキット配布がスタートする予定です。登録者に対しては、キット使用方法に関するレクチャーを行った後iFOBT検査を実施し、陽性者には7月より大腸内視鏡検査を開始する予定です。

2013年5月現在、サン・ボルハ・アリアラン病院の日智消化器病研究所に設置されたPRENECセンターは、秘書2名、看護師2名、医療補助員5名からなる計9名のスタッフで構成されております。



サンティアゴのPRENEC拠点のスタッフ



改修が終わり、内視鏡検査を待つ日智消化器病研究所



CESFAMでプロモーションを行うスタッフ



CNNチリの取材を受けるサラテ医師

寄稿：TMDUと私

本学は、JICA支援の下、日本にて行われた研修会(胃がん早期発見治療プログラム)を通じて、中南米地域の医師の人材養成に協力して参りました。本号では、本年1月から3月まで日本で開催された集団研修「中南米・アジア地域上級早期胃癌診断—早期消化器癌の診断と治療—」に参加し、本学の河野教授(食道・一般外科学分野)の指導の下研修を行ったCLCのアレハンドロ・サラテ医師にご寄稿いただきました。

アレハンドロ・サラテ 医師

クリニカ・ラス・コンデス 大腸肛門科所属

本年、JICA支援のおかげで、私は東京において真に忘れがたい2ヵ月間を過ごすことが出来ました。私にとって、東京で実施された集団研修「中南米・アジア地域上級早期胃癌診断—早期消化器癌の診断と治療—」への参加が許されたことにより、最新の医療知識、技術等ばかりでなく、現実の日本文化や社会にも触れることのできる機会を得ることができました。

1月下旬から3月中旬のほぼ8週間、私は非常に興味深く有用な講義からなる全体研修に参加し、その後東京医科歯科大学にて個別研修を行いました。本学では、河野先生の指導のもと病院研修の一環として、多くの内視鏡や外科手術を見学し、また病理部では検体処理を見学する機会を得ました。

日本で過ごした期間は約2ヵ月間という短いものでしたが、日本の医療に関して多くのことに気づかされました。例えば、東京医科歯科大学の充実した医療設備で提供される先進性に富む高度な技術のみならず、同附属病院に勤務している医療スタッフの勤勉さとプロ精神にも感心せずにはいられませんでした。

一方、この日本滞在期間で、日本人のユニークな働き方と規律正しさは東京医科歯科大学医学部附属病院に限らず、日常生活に関わる各種の活動にも反映されるということを理解しました。確かに、これは誰が見ても良き生活のあり方だと思えます。



TMDUの仲間による研修終了慰労会

最後に、この場を借りて、TMDUとJICAスタッフの貴重なご支援、ご協力に感謝を申し上げたいと思います。特に河野先生を始め、江石先生、岡田先生には大変お世話になりました。

この研修が私の医師としての修練に大きく貢献したことは偏に皆様のおかげです。

(翻訳:ウレホラ・ハイメ)



略歴:

チリ・カトリカ大学医学部を卒業。2008年より、本学で大腸・消化外科を専門とする医師のコーディネーターに就任し、同時に同学でもリサーチフェローとして勤務。その後、クリニカ・ラス・コンデスの大腸肛門科・分子遺伝学でリサーチフェローとなる。現在は大腸肛門科のみならず救急治療部主任としても勤務。



JICA研修におけるプレゼンテーション

活動報告

日智商工会議所にて講演

日智商工会議所(Camara Chileno Japonesa de Comercio e Industria A.G.)は、チリで活動する邦人企業が経営及び公的活動の発展を促進することを目的に結集され、さらには恒常的な連絡場所としての役割を果たす為に1980年に設立された非営利団体です。現在では日系62社、チリ7社の企業会員を擁し、また在チリ日本大使館、サンチャゴ日本人学校、JICA、JETRO等の政府系機関や国立天文台といった学術機関も参加しています(<http://www.camarachilejapon.cl/>)。

同所では、会員向けに様々な分野の専門家を招き、定期的に講演会を開催しています。この度、4月16日にLACRCの河内講師が「チリオよびラテンアメリカにおける医療技術支援」と題し、講演を行いました。講演では、過去のJICAによる医療技術支援の歴史や、現在のプロジェクトの概要などを紹介しました。当日は多くの日系企業・チリ企業の会員が参加され、東京医科歯科大学とチリ・ラテンアメリカ諸国との結び付きや我々の活動についてご理解頂きました。在チリ日系社会の方々に我々の活動を知って頂く良い機会になりました。

本学における中南米での取り組みを多くの方に知っていただく

ため、LACRCでは今後も積極的にこのような活動に参加してまいります。



講演会終了後、嶋崎利浩会頭(智利三菱商事)による記念品贈呈

三井チリ・森泰憲氏へ記念品贈呈

三井チリ(三井物産株式会社・在チリ法人)前社長・森泰憲氏は、LACRCが開設された2010年4月当時、日智商工会議所の副会頭を務められていました。東京医科歯科大学として初めての常駐スタッフ派遣に際し、当時チリでの生活における情報が一切得られない状況の中で、赴任者の生活のセットアップの為に大変親切に対応して下さっただけでなく、我々の活動に関しても、御理解・御支援を頂き、式典や公式晩餐会等にも日智商工会議所を代表して御出席いただきました。不安の中スタートしたLACRCが、順調に船出することができたのは、森氏の御尽力があつてのことです。本年4月末日をもって、森氏が任期を終えられ帰国されることになり、これまでのご支援に対する感謝の意を込めてLACRCスタッフがサンチャゴ・三井チリを訪問し、記念品を贈呈いたしました。森氏の日本での益々のご活躍を祈念致します。



三井チリ・オフィス前で森前社長と

秋葉厚労副大臣のCLC訪問

4月26日から5月5日にかけて、厚生労働副大臣・秋葉賢也氏ら訪問団がブラジル、チリ、フランスを訪問されました。チリでは村上在チリ日本大使らとともに、マニャリッチ保健大臣と会談され、医療分野における協力強化について意見交換がなされました。その後、CLCを訪問され、LACRCの視察、CLCのグレベCEOやテヒアス病院長と懇談しました。秋葉副大臣は本学の取り組みを高く評価されるとともに、これらの活動を通じて、日本の医療技術や機器・検査試薬が中南米で広まっていくことへの期待を表明されました。



LACRCスタッフによる秋葉副大臣らへのブリーフィング



CLCのグレベCEO、テヒアス病院長、ロペス医師らと記念撮影

エクアドル訪問

4月27日から5月1日にかけて、LACRCスタッフ3名（河内、田中、岡田）がエクアドル・キトを訪問しました。この訪問はエクアドル保健省と東京医科歯科大学間の協定に基づいて行われたもので、現在進行中の大腸癌早期診断プロジェクトの視察、内視鏡診断・治療に関する助言、病理診断に関する意見交換などを行いました。同プロジェクトは、プロジェクトリーダーを務めるモンタルボ医師が所属するパbro・アルトゥロ・スアレス国立病院で進められてきました。同病院でのパイロットプロジェクトの成功を受けて、今後他の国立病院・私立病院にもネットワークを広げる構想が進められていることから、候補施設であるエスペニオ・エスペホ国立病院への視察も行いました。また在エクアドル日本大使館、JICAエクアドル支所を訪問し、活動報告を行いました。今後も定期的にエクアドルを訪問し、プロジェクトの支援を行って参ります。



岡田助教による内視鏡検査の様子

Staff

2011年12月より約1年半にわたり、CLCや保健省直轄のサン・ボルハ病院で、内視鏡の臨床指導に取り組んでいた田中浩司助教が、任期満了のため、5月に離任いたしました。

また、田中助教の後任として、2013年4月に、岡田卓也助教がLACRCに着任いたしました。

離任挨拶

田中浩司 LACRC 食道・一般外科学分野

私は、2011年12月29日にサンティアゴに到着してから、この5月に帰国するまで16ヶ月半チリ拠点LACRCの職員として働いてきました。

前任の西蔭医師の後任として、チリでの大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)に内視鏡医として参加し、実際に現地で内視鏡検査・内視鏡治療を行ったほか、サンティアゴの国立サンボルハ病院では、若い消化器内科医、大腸肛門外科医に内視鏡指導を行いました。また、チリと同じようにプロジェクトを開始したエクアドルのキトにも2度出張し、当地の医師と一緒に大腸内視鏡検査を行うことができました。

計4病院で内視鏡検査を行ってきましたが、設備の差はあれ、携わる医師・病院スタッフはみな日本人の私に親切であり、楽しく仕事を行うことができました。

PRENECは、地方都市であるプンタ・アレナス、バルパライソで現在行われています。しかし、このプロジェクトのメインとなる首都サンティアゴでは、ようやく5月から開始となり、残念ながら私はその場に立ち会うことができません。このことが唯一の心残りではありますが、その責務を後任の岡田医師に託し、日本よりサンティアゴでのプロジェクトの成功を見守りたいと思います。また、今後チリ国内外の複数の地域でプロジェクトが展開される予定であり、LACRCの活動が南米中に大きく発展していくことを心より祈念し、離任の挨拶とさせていただきます。

Viva Chile, Viva LACRC!!



サンボルハ病院の内視鏡室スタッフと



キトのプロジェクトスタッフと

着任挨拶

岡田卓也 LACRC 食道・一般外科学分野

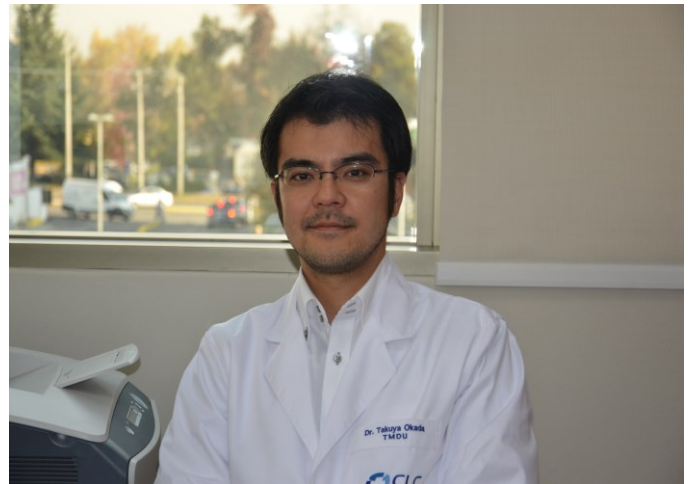
本年4月より東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点に着任致しました、岡田卓也と申します。関係者の皆様のご協力のもと、無事にチリ共和国、サンティアゴに到着し、居住手続き等も済んで生活環境は万事順調に整っております。

サンティアゴでの暮らしは約1ヶ月となりました。街の印象は綺麗な山々に囲まれた大都会で、自然や歴史的な建造物を残しながら近代的なビルやショッピングモールが立ち並び、現在も次々と新しく建設されています。チリ人特有の人々の温かさと、経済発展のスピードを同時に肌で感じることができる魅力的な街です。

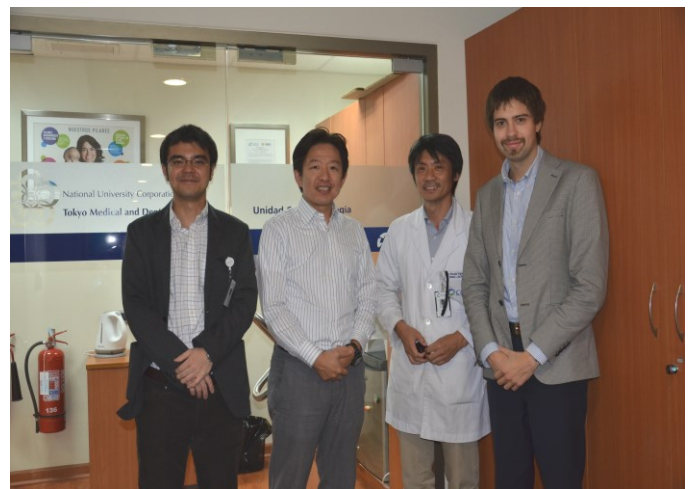
私が配属された内視鏡部門では実際に内視鏡検査を行いながらプロジェクトに参加し、現場医師と診断や治療に関する意見交換を行っています。内視鏡検査を正確かつ安全に行うには、周りのスタッフとの連携のみならず、患者さんへの声掛けも重要です。まずはスペイン語でのコミュニケーションを円滑に進めることを喫緊の目標とし、日々業務に取り組んでおります。

慣れない土地で単身での生活が始まりましたが、オフィスのスタッフは勿論のこと、現地日本人の方々、JICAプログラム等により来日した際に知り合ったチリ人の友人達にも助けられ、充実した日々を送っております。特に、現地関係者の皆様の、プロジェクトを含め医療に対する熱心な姿勢は私としても学ぶべき所が多く、良い経験をさせて頂いていると実感しております。

今後もニュースレターを通じて活動の様子を逐次ご報告させていただきます。今後ともご声援のほど宜しくお願い致します。



岡田助教(LACRCオフィスにて)



LACRCスタッフ(写真左より岡田助教、田中助教、河内講師、ハイメ)

編集後記

私は先月より、産休に入った四宮の後任としてClínica Las CondesのLACRCオフィスに勤務しているウレホラ・ハイメと申します。国立サンティアゴ大学の日本語・英語翻訳課程を卒業し、幸い文部科学省の奨学生に選ばれ上智大学に留学することができました。今後もより良いニュースレターを作成するため、皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

(ウレホラ・ハイメ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 9, May 2013

[発行日] 2013年5月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 610 3780 Fax: (56-2) 610 8610
Email: jurrejola@clc.cl